



防府市は、これまで学校と地域が協働して取り組む「土曜日の教育活動」や「ふるさと防府」を学び、「ふるさとを愛する心」を育てる「菅公みらい塾」などを基盤に地域連携教育を推進してきました。また、各公民館が中心となって各地域協育ネットを組織し、公民館社会教育指導員が学校と地域を結び付ける役割を果たしているのも特徴といえます。さらに、市全体で組織する「ほうふ幸せますネット協議会」の熱心な協議や取組により、より発展した地域連携教育が展開されるものと期待しています。

防府市の推進構想

地域まるごと学校「防府モデル」

防府市は、1つの小学校から複数の中学校へ進学することがあり、子どもたちの連続した育ちや学びを支援していく上で、学校間の連携と地域コミュニティの中心である公民館との連携を密にしていく必要があります。そのため、すべての小・中学校の地域コーディネーターの役割を、各公民館の社会教育指導員が担い、学校教育と社会教育が一体となった持続可能な推進体制を構築しています。

さらに、各学校の地域連携担当教職員と地域コーディネーターが情報を共有しながら、「ほうふ幸せます人材バンク」の活用を推進しています。

【成果】

- 公民館を核とした地域コーディネーターの取組



地域住民が教育活動に積極的に参加することができるよう活動を支援している。

- 学校地域連携カリキュラムの作成



ふるさとを愛する心を育て、ふるさとを担う人材を育成するための取組を実施している。

- 家庭教育支援チームの充実



保護者同士のつながりを深めるための交流会や乳幼児と中学生とのふれあい体験を実施している。

- 防府市地域連携教育アドバイザーを中心としたプロジェクトチームによる推進体制の確立



すべての学校運営協議会、地域協育ネット協議会に参加し、情報共有・行動連携に努めている。



【課題解決に向けて】

- 保護者にCommunity Schoolをより知っていただくために

すべての学校でCommunity Schoolの取組を紹介するプレゼンテーションを作成し、学校運営協議会や地域協育ネット協議会、PTAの会議等で活用する。



- 小・中学校の交流や地域の大人との交流の機会を増やすために

学校地域連携カリキュラムを活用して、小中が連携した活動や地域住民と児童生徒が交流する活動を推進する。



- 児童生徒の自己肯定感を高めるために

地域の方とともにボランティア活動に参加し、地域の方からの称賛を得ることによって、児童生徒に自己有用感や達成感を味わわせる機会を増やす。



防府市立国府中学校



「地域の子どもを育てる会」と称して、本校の3つの地域内で、それぞれ出前型の学校運営協議会を開催した。各地区の自治会長や保護者から、教育活動に関する多くの意見が提案された。

防府市立中関小学校



校内研修で教職員が地域連携の効果や必要性、具体的な取組について協議した。また、コミュニティ・スクール便りやHP、全校朝会等様々な機会を捉えて、保護者や地域、そして子どもたちに発信を続けている。

防府市立桑山中学校



学校運営協議会委員が中心となり、学校行事「萩往還を歩こう」のマップ作りや事前視察等を行い、PTAとも連携し、総勢80名の組織的なサポートを実践している。

防府市立富海小中学校



毎年海開きの前に、児童生徒が富海地域の方々と一緒に「富海海水浴場」の清掃活動を行っている。「海岸をきれいにして、たくさんの方に富海に来てほしい」という児童生徒の思いがあり、地域を愛する心が培われている。

防府市立牟礼小学校・牟礼中学校



地域行事の牟礼ふれあい夏祭りで生徒が「春日少年鬼太鼓」の演奏を披露した。小中学生で編成されている太鼓隊は、各地の行事でも演奏をしている。

防府市立中関小学校



「小中連携学力向上」の取組として、中学生が、低学年には本の読み聞かせ、中学年には中学生が行った地域探訪の発表、高学年には学習支援をしている。

防府市立向島小学校



向島漁協が養殖している「蓬萊あさり」の間引き体験を行った。児童が地域の産業や地域のよさを知ることができ、とても実りある活動となった。

防府市立右田小学校



「佐波川を学ぶ会」の方々のご協力をいただき、4年生が佐波川での体験活動を行っている。ゴムボート、たらい船、水中眼鏡による観察等多くの活動が経験できた。